

第3部:プログラミング演習

名城大学
理工学部メカトロニクス工学科
大原賢一



第3部での目標

- Flipコンポーネントを自身で作成することで, RTコンポーネント開発の基礎を習得すること.

実習の進め方

- 第2部で作成したFlipコンポーネントのひな形を準備します.
 - あとは、下記のページに書かれている流れに従って、コンポーネントを作成してください.
- <http://www.openrtm.org/openrtm/ja/node/5022>

本日の講習の復習

RTコンポーネントを用いたシステム の構築手順

1. ネーミングサービスの起動
 - ネーミングサービス: ネットワーク上で起動しているRTコンポーネントの情報管理.
2. RTシステム構築に必要なツールの起動
3. システムに必要なRTコンポーネントの起動
4. コンポーネント同士の接続
5. コンポーネントの起動(RTシステムの起動)

RTコンポーネントの作り方

- RTC Builderで作成されたひな形の必要な箇所(処理を実装したいアクティビティ)の部分に処理を追加する.
 - ひな形の中の各アクティビティのところに追加で書き込むというのがポイント！(アクティビティなどは新規で書かなくてOK.)
- 処理を書いたら, コンパイル.
- Windows+Visual Studioの場合, “(コンポーネント名) Comp”のプロジェクトを「スタートアッププロジェクト」に設定しておくと, デバッグが簡単に.

コンポーネントの再利用方法

- 公開されているコンポーネントをダウンロード
- Windowsの場合 : Cmakeでソリューションファイルの生成
- 生成されたソリューションを開く
- コンパイル
- コンポーネントの起動

基本的にはこれで動くはずだが、動かない場合は、公開している人に問い合わせしてみる。